峡南教育事務所Newsletter

かけはし

第201号
2026年1月発行

発行：峡南教育事務所
教育支援スタッフ（地域教育担当）

南巨摩郡富士川町鰍沢771-2
TEL:0556-22-8154
FAX:0556-22-8144

HPからも御覧になれます。(QRコード)

南巨摩合同庁舎(合庁)

目次：

峡南地域 異校種連携・子育て学習会　1
ことぶき勧学院だより　2
生涯学習推進のつどい（早川町）　3
わくわく科学教室（富士川町）
もちつき会(大野山保育園)
米国修学旅行生との交流（身延山高校）　4
ふじかわ分校まつり（わかば支援ふじかわ分校）
卒業証書漉き（身延清稜小）

新しい１年が始まったと思ったら、あっという間に１月も中旬を過ぎてしまいました。年々、時間の経過が早く感じられるのは、「人生のある時期に感じる時間の長さは年齢の逆数に比例する」からとも言われます（ジャネーの法則）。しかし、時間そのものは誰にとっても等しく流れているはず…。いずれにせよ、１日１日を大切に、丁寧に過ごして、健やかに生きたいですね。

令和七年度 峡南地域 異校種連携・子育て学習会
講演「子どもたちの『安全基地』をめざして」
～多様なニーズを持つ子どもたちへの理解と支援～
県教育庁特別支援教育・児童生徒支援課　小林 ゆかり 氏

令和七年度峡南地域・異校種連携・子育て学習会が、十一月十四日（金）に市川三郷町生涯学習センターの多目的ホールにて開催されました。

今年度は、異校種連携として、青洲高校の音楽部のみなさんをお招きし、開会行事の中で素晴らしい合唱を披露していただきました。

講演会の講師を務められたのは県教育庁特別支援教育・児童生徒支援課の指導主事である小林ゆかりさんです。小林さんは、教諭として採用された後、通常の学級担任を十五年、特別支援学級の担任を五年経験され、令和三年度より県教育委員会の指導主事として活躍されています。

今回の講演は、参加者にもテーマについて主体的に考えてもらえるように、講師からの質問に応答したり、近くの人と意見交換を行ったりする時間が設けられるなど工夫されていました。また、配付された資料にも適宜空欄が設けられ、講演を聞きながら書き込みをしていくワークシート形式になっている等、随所に小林さんの教員経験がうかがえました。

小林さんは、講演の冒頭で「今、気になる子どもを一人思い浮かべて、どんなことが気になっているのか考えて」と参加者に投げかけました。その後、講演では、「”ちゃんと“の呪い」「困った子？」「安全基地を作る」「必要なのは大人の笑顔と上機嫌」という四つの事柄について、小林さんの教員時代の実体験に基づく具体的な説明が続きました。それぞれの内容には、「気持ちに余白をもって多様な子どもたちと向き合おう」「リフレーミングと四つの目で子どもの理解の守備範囲を広げよう」「安心して過ごせる安全基地を作ろう」「大人の安全基地も作ろう」といったポイントが示され、どのお話も大変わかりやすく、示唆に富むものばかりでした。先生の講演を聞きながら、ステップを踏んで考えを進めていくことで、冒頭で思い浮かべた自分の「気になる子」に対して、今後どのように接していけばよいかが具体的に理解できるような話の構成になっており、子育てに関わる全ての人にとって、すぐに役立つ大変有意義な講演となりました。

【講演会の感想（抜粋）より】

〇子育てで悩むこともたくさんありますが、子どもとの関わり方について今日から実践したいことがたくさんありました。（教職員）

〇子育ての参考になりました。また自分のしてきた子どもとの関わりかたも間違っていなかったんだと自信に繋がりました。介護の仕事をしていますが、職場でも役立てていきたいと思います。見方を変える、とても大切だと思いました。（保護者）

〇とても学びの多い講義でした。できることから実践していきたいと思います。また、本課では学童の担当課でもありますので学童の支援員にも還元したいと思います。（子育て支援課職員）

ことぶき勤学院だより

～日々の活動より～

◎音楽を楽しむ（二年生）

十月三十一日（金）に山梨英和大学教授の井上征剛さんを講師にお招きし、『クラシック音楽を楽しもう：ベートーヴェン「第九」を聴く』というテーマでご講演いただきました。前半はクラシック音楽の世界で、「楽聖」と呼ばれるベートーヴェンの生涯や人となりについて説明があり、後半は、彼の「交響曲第九番」について譜面やシラーの詩を参照しながら解説していただきました。日本では、年末の風物詩となっており、誰しも耳にしたことのある、あの「第九」ですが、その曲の背景や構成、音楽に込められた思いなど、井上先生から丁寧に解説された後に鑑賞すると、これまでとは違った角度から「第九」を堪能することができました。「わかったつもりになっていることも、きちんと学び直すことで、新たな気づきが得られる」、そんな思いを抱かされた講座となりました。

◎地域での交流（一、二年生合同）

十一月四日（火）に富士川町の釜無川浄化センター長沢グラウンドにて、一・二年生合同のグラウンドゴルフ大会が行なわれました。この大会は、健康管理・体力向上を図るとともに一、二年生で合同チームを組んで、一緒にプレーすることで、交流・親睦を深めることを目的として毎年行われています。今年は気持ちの良い晴天に恵まれ、風もなく、絶好の環境でプレーを楽しむことができました。それぞれのチームからは、「ナイスショット」といった掛け声が聞こえたり、ホールインワンが出ると歓声が上がったりと、終始笑顔の絶えない、とても和やかな雰囲気でプレーしている様子がうかがえました。結果は、個人優勝が、秋山恒子さん（一年生）と佐野政信さん（二年生）。団体ではCチームが一位となりました。実行委員の皆様、企画・当日の運営等、ありがとうございました。

◎国際交流（二年生）

十一月十四日（金）に元JICAシニア海外ボランティアの久保弘恵さんから国際交流について学びました。

久保さんは、子育てをしながら保育士として働いていた時、偶然テレビで目にしたカンボジアの子どもたちの状況にショックを受け、彼らを助けたいという思いに火が付き、以後消えることがありませんでした。その後何度も選考試験に挑み、念願叶ってNGO国際ボランティアとしてプノンペンの幼稚園に勤務することができました。その後もネパールでJICAシニア海外ボランティアとして、幼稚園の建設や指導者の育成などに尽力されるなど、久保さんの活躍は枚挙に暇がありません。お話からは、日本とは全く異なる生活環境の中で、数多くのご苦労があったことがうかがえましたが、明るい笑顔と前向きな姿勢で、どんな困難にも屈せず、国内外の子どもたちを支えてこられた久保さんの情熱と強さを知り、受講者一同大いに感服させられました。

◎施設訪問（一年生）

十一月十八日（火）に富士川町にある県の森林総合研究所を訪問し、大澤正嗣さんから森に住む昆虫の話を、戸沢一宏さんからは薬用植物の話をうかがいました。大澤さんの昆虫の話は学校で習った生物の授業を思わせる内容で、昆虫の分類から生理、生態、食性等に至るまで、写真を示しながら丁寧に説明いただきました。また昆虫と人との関わりについてもお話いただき、中でも昆虫食のお話は大変興味深いものでした。後半の戸沢さんのお話は、「薬草の話」がテーマでしたが、それぞれの薬草の効能などが紹介されるだけでなく、講師の戸沢さんがその薬草を使って実際に料理された写真やレシピも示され、家庭科の授業のような雰囲気でした。ただ、「薬草はものや部位によっては医薬品となってしまい、薬機法に抵触する恐れがあるので注意が必要である」というお話には、皆さん深くうなずかれていました。

◎時事問題（一年生）

十二月九日（火）に合同庁舎にて、県民生活支援課の羽中田晋之介さん他6名の方々をお招きし、高齢者の交通事故防止を目的とした体験型交通安全講座が行われました。羽中田さんの講義の後、四つの班に分かれ、「アクセスチェッカー」を用いた運転適性診断、仮想体験型交通安全VRによる交通事故の疑似体験、VRゴーグルを用いた飲酒時の視界体験など、様々な機器を利用した体験学習を行いました。山梨県は交通事情により、高齢者のドライバーが多い地域ですが、加齢による認知能力や体力の低下は交通事故につながる要因となります。今回の講座での学びを生かし、今後も事故を起こさない・事故に遭わないように十分気をつけて生活していきましょう。

学生募集

来年度のことぶき勤学院の学生募集が二月二日から始まります。各町教育委員会や合同庁舎で案内を配布しておりますので、ぜひお問い合わせください。

生涯学習推進のつどい【早川町】

十一月十八日(火)に、早川町の町民体育館にて、「生涯学習推進のつどい」が開かれました。今年度は、山梨県中央市出身のプロレスラー鷹木信悟さんが「我道驀進～元気ハツラツな生き方～」をテーマにトークライブを行いました。このつどいは、鷹木さんが町の教育委員・望月一仁さんの教え子であることが縁で実現したもので、会場には町内の小中学校の児童生徒や町民に加え、鷹木さんの市川高校(現・青洲高校)時代の同級生や県外からのファンも来場し、深沢町長が挨拶の中で「町民の一割程が集っているのでは?」と述べる程の盛況ぶりでした。

会の前半は、司会の方との掛け合いによる鷹木さんのお話が中心で、幼少期の思い出話や、プロレスラーを目指した経緯、また上京した後からデビューするまでの苦労話など、様々なエピソードが語られ、参加者を楽しませていました。また、後半の交流会では、町内の児童生徒とマットを囲み、一緒にスクワットや腕立て伏せなどを行い、交流する場面もありました。

鷹木さんは終始「一度決めたことは、諦めずに最後までやりきる」「自分のやるべきことを周囲に話し、逃げ場を作らず、有言実行する」など、困難に屈せず、自分の目標に向かって突き進む姿勢の大切さを伝えられました。そうした鷹木さんの熱い言葉の数々に、参加者一同、大いに鼓舞され、また勇気づけられた会となりました。

わくわく科学教室【富士川町】

十二月六日(土)に、増穂小学校体育館にて、「わくわく科学教室」が行われました。この「わくわく科学教室」は、富士川町の「放課後子どもプラン推進事業」の一環として、町内の小学校三年生から六年生を対象に、科学に関する実験を遊びを通して行う教室です。年間を通じて5回実施されており、今回が今年度の最終回となりました。

今回のテーマは「パタパタホバークラフト」と「静電気クラゲ」です。「パタパタホバークラフト」はまず動画でホバークラフトが浮き上がる仕組みと作り方を学び、その後、班に分かれて段ボールとポリ袋を材料に作成しました。ポリ袋に穴を開けるのに苦労していましたが、皆、工夫しながらなんとか完成させました。また、完成後は、各自が絵を描き加えたり、プロペラをつけたりして自分だけのホバークラフトに仕上げていました。次の「静電気クラゲ」は、クラゲ状にしたビニール紐を、棒状の風船を使って静電気の力で浮かせるというものです。最初のうちは、浮かせるつもりのクラゲが体にくっついてしまうなど苦戦していましたが、すぐにコツをつかみ、長くクラゲを空中に浮かせることができるようになりました。

最後の感想発表では、「普段は学べない科学のことをたくさん知ることができた」「不思議なことが色々あることが分かった」といった声が聞かれました。冬の寒さが厳しい日ではありましたが、子どもたちは元気いっぱいに走り回り、自分で作ったもので楽しそうに遊んでいる姿がとても印象的でした。

もちつき会【大野山保育園】

十二月十八日(木)に、身延町の大野山保育園にて、毎年恒例の「もちつき会」が開かれました。熱々に蒸かされた餅米が臼に入れられると、待っていましたとばかりに年長の子どもたちが、ボランティアの方や保護者・保育士と一緒に、杵を手にして懸命に餅をついていました。周りで見ていたお友達や年少・年中の園児たちも、餅つきのタイミングにあわせて、みんなで「よいしょ!、よいしょ!」と大きな掛け声を響かせていました。

高山園長によると、大野山保育園では前の園長(高山さんの母で現・理事長)の時から、長年にわたり食育活動を重視しており、高山園長も母と同様に保育士と栄養士の資格を取得し、食を通じた保育実践に力を入れているとのことです。この「もちつき会」で使われる餅米も、園児たちが籾の選別から行い、田植えをして収穫した餅米を利用しているとうかがいました。

みんなでついた餅は、地域のボランティアの方々の手により、あんこときなこで味付けされ、おやつの時間にみんなで食べることになっていました。私も、高山園長のご厚意により、ひと足先に味見をさせていただきましたが、つきたての餅はあたたかくて、やわらかく、大変おいしかったです。園児にとっては、自分たちが育てた餅米を使い、臼と杵でついたお餅なので、なお一層、格別の味がしたことでしょう。

この行事に限らず、大野山保育園では、園の運営にボランティアで協力いただける方を募り、地域の方と一緒になって園児の保育に当たっているそうです。「地域の子どもたちを地域で育てる」という理想の形が垣間見える素晴らしい「もちつき会」でした。

米国の高校生との交流会

【身延山高校】

十一月四日(火)に身延山高校にて、米国からの修学旅行生二十八名を招いた異文化交流会が行われました。この異文化交流会は、米国のイリノイ州にあるノースショアカントリーデイ高校(NSCD)の生徒が、修学旅行の一環で山梨を訪れ、身延山の宿坊の一つである行学院・覚林坊に宿泊することを契機に実現しました。

最初に、身延山高校の生徒がクイズなどを織り交ぜながら、学校の紹介を英語で行い、続いてNSCDの代表生徒による学校紹介と日本の歌(藤井風の『花』)の披露がありました。

異文化交流では、まず、ガイドの方の剣舞を全員で見学し、その後、生徒たちは三つの会場に分かれて、茶道・雅楽・剣舞の体験を行いました。NSCDの高校生たちは最初こそ少し戸惑いを見せていましたが、通訳や覚林坊の方々にサポートしてもらいながら、積極的に体験活動を行い、身延山高校の生徒たちともすぐに打ち解けて、交流を楽しんでいました。短い時間でしたが、両校の生徒たちにとって、思い出に残る交流会になったと思います。

ふじかわ分校まつり

【わかば支援学校ふじかわ分校】

十一月八日(土)に、わかば支援学校ふじかわ分校にて、「ふじかわ分校まつり」が開催されました。この催しでは、小学部と中学部の各ステージ発表と児童・生徒が作成した作品の展示が行われました。

小学部のステージは、『はぶじゃぶじゃん』という修行中の魔法使いを描いた絵本を題材とした発表でした。児童は魔法学校の生徒になり、箒に乗って塔や飛行機を飛び越えたり、魔法の呪文「はぶじゃぶじゃん」を使って、友達を様々な動物に変身させたりしていました。発表の最後には魔女となった先生を、みんなで協力して大きな空気砲で退治することに成功しました。中学部は「おくにじまん～いとしいこのセカイ～」をテーマに、東京と山梨のどちらが優れているか、お国自慢を展開しました。一年生は生活単元学習で学んだ峡南カルタを使って、大塚にんじんや身延山久遠寺などを紹介して、「山梨が日本一」であると主張し、二・三年生は修学旅行で訪れた東京について、スカイツリーやもんじゃ焼きなどを挙げて、東京の素晴らしさを紹介しました。最後は「どちらもすばらしい」という落ちが付き幕となりました。

展示作品も児童・生徒の個性が生きており、展示の方法も、風鈴には扇風機で風を当てるなど工夫が凝らされていました。

先生方の素晴らしい支援のもと、児童・生徒の生き生きとした姿を見ることができ、学校の楽しい雰囲気が存分に伝わる素晴らしいまつりとなりました。

六年生の卒業証書漉き

【身延清稜小学校】

十一月二十一日(金)に、西嶋のかみすきパークにて、身延清稜小学校の六年生九名が、卒業証書に使われる和紙を漉きました。

学校から歩いてかみすきパークに到着した児童たちは、まず長靴に履き替え、エプロンを身につけた後、かみすき館内にある「手漉和紙研修室」に入っていきました。最初に担当の方から、和紙漉きで使用する道具や材料の説明を受け、次に和紙漉きの一連の流れを教えてもらいました。やり方が分かったところで、児童は互いに役割を交代しながら、自分の卒業証書に使用される和紙を自らの手で漉いていきました。

今回の卒業証書漉きでは、紙幣の原料にも用いられる「三椏(みつまた)」と「アバカ(マニラ麻)」が使われ、それぞれが入った二つの漉き舟が用意されていました。また証書には校章の透かしを入れるため、専用の簀桁(すけた)が用いられました。児童たちは、教えられた手順に従って紙漉きを行い、脱水して乾燥させるところまでの作業を手際よく行っていました。

作業が終わった児童に感想を聞いてみたところ、「紙漉きは以前にもしたことがあるけれど、一枚を作るのに二回漉くのは初めてだったので、証書作りはいつもと少し違うなと思った」といった声が聞かれました。今回漉いた紙を次に目にするのは卒業式の当日です。どんな風に仕上がっているのか、できあがりが本当に楽しみですね。